

～ 市田柿ブランド力による農業振興の取り組み ～

所在：飯田下伊那

取組主体：(株)市田柿本舗ぷらう	取組開始時期：平成21年
取組分類：農業関係団体主導型	解消面積：6.1ha(H21～H24)
導入作物：市田柿	販売先：JA

1. 取組のきっかけ・経緯

- ・飯田下伊那特産「市田柿」は、販売額40～45億・地域関連経済額80～90億と一大産業に発展している。
- ・市田柿は平成18年地域団体商標を取得し、日本一の干柿としてブランド化が図られ地域の強みとなり農家経営の柱となっている。
- ・農家の高齢化による生産量低下によりブランド力低下が心配され、JAみなみ信州は平成21年「(株)市田柿本舗ぷらう」を設立した。



2. 取組内容

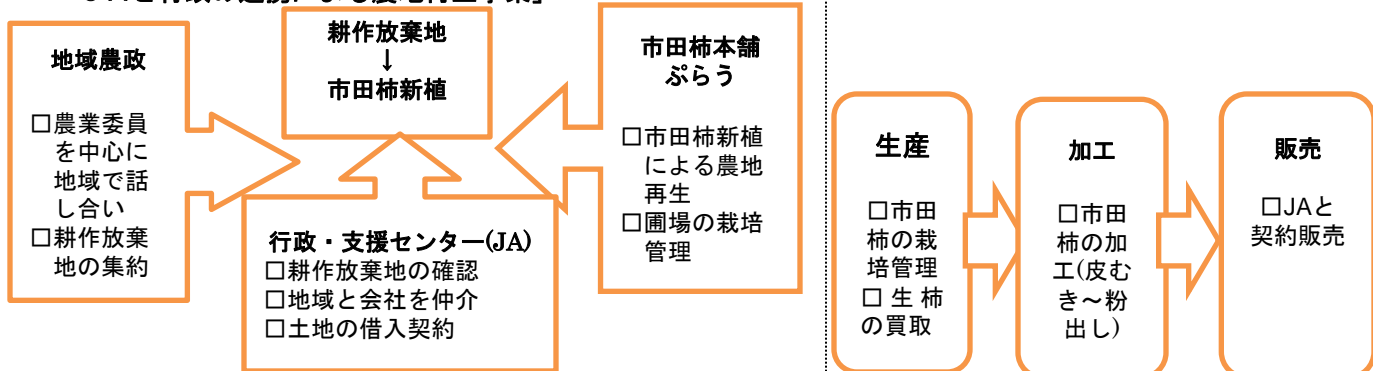
「市田柿本舗ぷらう」が取り組む農業振興

- 生柿買取事業・干柿加工が出来ない農家に生柿買取契約により農地の遊休化の防止を図っている。
H24 契約農家95戸 取引生柿数量127t 栽培面積 6.4ha
- 柿園の借入管理事業・干柿加工栽培が出来ない農家より柿園を会社が借りて栽培管理を行い、遊休化の防止を図っている。 H24 柿園借入農家35戸 借入栽培管理面積 4.5ha
- 市田柿新植事業・遊休化した農地を借入し、市田柿の新植より農地の再生化を図っている。
H21～24実績 市田柿新植面積 6.1ha

取組主体による導入作物栽培面積	17.0ha
うち耕作放棄地の再生面積	6.1ha

3. 販売計画

「JAと行政の連携による農地再生事業」



4. 将来構想(今後の展開方針)

- 更なる市田柿ブランドの確立により、中核農家・農業生産法人の育成⇒経営指針の確立
- 市田柿を中心とした6次産業化による新たな経済力の確立と拡大